

日之出水道機器株式会社

社員とその家族の安全・安心確保し、
公共資機材メーカーとして供給責任を果たす

Data

対象事業：栃木工場

対象リスク：大規模地震の発生

被災シナリオ：栃木工場周辺において真冬の平日夕方5時、震度6強
の地震発生。発災後3日間の停電、10日間の断水

事業継続策：社員の安否確認

中核事業の早期復旧



企業名 日之出水道機器株式会社 栃木工場

代表者名 工場長 百目鬼 光

Q 御社の事業内容は？

当社は鋳鉄やポリマーコンクリート等の材料技術を活用した公共構造物や産業機械等の研究開発及び製造・販売を行っている会社で、栃木工場では主に東日本向けの鋳鉄製のグラウンドマンホール及びポリマーコンクリート製品の製造を行っています。

Q 今回BCP策定に取り組まれた理由を教えてください。

東日本大震災の際は社員旅行中で、工場の操業は停止した状態でした。当社は鋳鉄製品を製造していることから約1500℃の溶けた鉄を扱います。もしこれが操業中であつたらと考えると、社員の安全が確保できたか、また生産設備の被害も計り知れないことから、事前にリスクに備えることが必要と考えBCP策定に取り組みました。

Q 策定したBCPの主な内容（ポイント）を教えてください。

社員の安全確保を最優先として、安否確認システムの導入、従業員の行動基準、初動対応基準を設定、徹底する為の教育/訓練計画等、ソフト面の充実に特に注力しました。

Q BCP策定によって得られた気付きはありましたか？ 想定されるリスクは被災シーンにより大きく

変化することから、様々なシーンでのリスクを想定し、そのシーンに応じた行動基準等の充実も必要と感じました。

Q 今後の課題と方向性について教えてください。

今回は対象を栃木工場のみとして策定しましたが、今後は本社との連動を進め全社活動とすべきと考えています。また、継続的な見直し/改善活動を防火管理委員会の活動とし充実化を図っていきます。

Q BCPを策定した感想をお願いします。

今回3名参加させていただいてこの3名が中心となりBCP策定に努めてきました。想定リスクの捉え方によって活動自体が大きく変化することから、様々な意見がありまだ難航している部分もありますが、BCP策定の必要性を真剣に考えさせられた一つのいい機会になったと思います。

商号	日之出水道機器株式会社
本社所在地	福岡県福岡市博多区堅粕 5-8-18
設立	1919年(大正8年) 6月8日
資本金	2億7千万円
従業員数	1,092名
代表者	取締役社長 浦上紀之
事業内容	鋳鉄やポリマーコンクリート等の材料技術を活用した公共構造物や産業機械等の研究開発および製造・販売
URL	http://www.hinodesuido.co.jp/index.html